

# データ利活用等のデジタル化の推進による社会課題・地域課題解決のための実証型研究開発（第3回）

## 中心商店街の活性化に役立つ地域DXの次世代型成功モデルを確立する研究開発

**研究概要**：本研究開発は、地域の中心商店街の再活性化に取り組む。地域のICT基盤を連携・発展させ、利活用に適した人物属性付き地域データとして蓄積し、市民アクティビティ（人流量・滞在時間や回遊性など）の定量・可視化を可能にする。また、プライバシーリスクの少ない新しいデータ利活用技術による地域データの積極的活用を可能にする。さらに、ブロックチェーン等の先進技術も用いて、産学官関係者が一丸となり積極的な実証実験に取り組み、地域DXの次世代型成功モデルの確立を目指す。

**IoTセンサ×アプリで地域データを連携して市民アクティビティを定量・可視化**



地域ICT基盤のデータを連携・解析して市民アクティビティ（人流量・滞在時間や回遊性など）を定量・可視化する。イベント活性化の取り組みの効果の定量的な評価を可能にする。

**地域ブロックチェーン×アプリで市民の行動変容効果を検証**



ボランティアやお祭りなど多様な地域イベントに参加する市民に対して、その参加証をアプリを通じて「地域バッジ」として配布し、市民アクティビティ向上等の効果を検証する。また、その取得履歴を地域データとして蓄積する。

**地域データ×新データ利活用技術でプライバシー保護とデータ積極活用の両立**



ユーザー側で蓄積したデータと新データ利活用技術を活用する、市民と商店街がWin-Winとなるクーポン配布の実証実験を行い有効性を検証する。

1年目



2年目

**地域データの利活用により市民アクティビティの10%向上を目指す**

【研究開発期間】 令和6年度から令和7年度まで

【受託者】 国立大学法人東北大学（代表研究者）、株式会社QUICK